

公社賃貸スマリオ石橋西団地(池田市) 建替後も受け継がれる団地コミュニティ

63年にわたり育まれた地域の交流と 5周年を迎える子育て支援住宅の取り組み

大阪府住宅供給公社では、府内の住宅やまちづくりの歴史を次世代へ伝える「住文化アーカイブ」の取り組みを進めています。このたび、2021年に建替えを完了した石橋西団地（池田市）をテーマにした記事を「住まいが紡ぐ物語～大阪府住宅供給公社 過去・現在・未来」公開しました。今回は、このアーカイブ記事から、建替前から石橋西団地に暮らす入居者の声と、子育て支援住宅として5周年を迎えたOPH石橋テラスの取り組みを通じて、団地が果たしてきた役割とその未来を紹介します。



▲建替前の石橋西団地



▲子育て支援施設が併設された
建替後のOPH石橋テラス

石橋西団地は1958（昭和33）年の建設以来、高度経済成長期の住宅不足解消の一翼を担い、約63年にわたり地域住民の暮らしを支えてきました。2021年3月、団地は建替えにより「OPH石橋テラス」に生まれ変わりましたが、かつて団地で育まれてきた住民同士のつながりや、地域で子どもを見守る文化は受け継がれ、地域で見守る暮らしのあり方を提案しています。

住文化情報サイト

「住まいが紡ぐ物語～大阪府住宅供給公社 過去・現在・未来」

石橋西団地アーカイブ

<https://www.osaka-kousha.or.jp/jyubunka/story/ishibashi-danchi/>

<お問い合わせ先>

総務企画部 企画課 企画グループ

担当： 辻本・灰垣

TEL 06-6203-5450 FAX 06-6203-7184

E-mail [kikaku5450\(a\)osaka-kousha.or.jp](mailto:kikaku5450(a)osaka-kousha.or.jp)

URL <https://www.osaka-kousha.or.jp>

※メールを送信する場合は、(a)を@に置換えてください。

笑顔の暮らしを！
大阪府住宅供給公社
変革し続ける企業

SMALIO
公社賃貸住宅 スマリオ

暮らしと支援が交差する拠点へ 「OPH石橋テラス」が生み出す住まいの新たな価値

今回公開したアーカイブでは、石橋西団地で暮らしてきた住民へのインタビューを通じて、当時の生活やコミュニティの実態を丁寧に記録しています。かつての団地では、子育て世帯が多く暮らし、子ども同士の間をきつかけに、親同士にも自然とつながりが生まれていました。日常的なあいさつや地域行事などを通じて形成された「顔の見える関係性」は、防犯や子育ての安心感にもつながっていたといいます。

一方で、建替後は設備面や居住性が大きく向上した反面、住民同士の関わり方は時代とともに変化しています。プライバシー意識の高まりなどを背景に、かつてのような密な交流は少なくなった現在、住民の声からは、建替事業では「ハードの更新」だけでなく、「人と人とのつながり」をどう再構築するかが重要であるということが見えてきます。本アーカイブは、その変化を当事者の言葉で可視化し、これからの住まいや地域づくりのあり方を考える手がかりを提示しています。



▲桜が満開の中庭（1985年頃）



▲入居者同士が日々顔を合わせた
屋上の物干しスペース(入居者提供)

“第二の実家”として機能する子育て支援拠点 「てしまの森」が育む地域コミュニティ

アーカイブでは、OPH石橋テラス内に開設された子育て支援拠点「てしまの森」も紹介しています。同施設は0～3歳の子どもと保護者を対象に2021年に開設され、予約不要で立ち寄れる交流・相談の場として運営されています。親子同士の交流に加え、スタッフが日常的に関わりながら利用者同士をゆるやかにつなぐなど、「関係性を育てる場」として機能している点が特徴です。

スタッフインタビューでは、子育ての日常的な悩みについて、特別な相談の場を設けるのではなく、普段の会話から自然に共有できる環境づくりを重視していることが語られており、こうした関わりが、保護者の安心感につながっています。

また、「第二の実家」というコンセプトには、子育てを一人で抱え込まないための居場所を地域の中につくるという意図があります。背景には、核家族化や地域とのつながりの希薄化により、孤立した子育てが課題となる現状があります。

住宅内に立地するため、地域住民との自然な接点や緩やかな見守りも生まれており、「てしまのもり」は、かつての団地にあった日常的な交流を現代的に再構築する試みともいえます。本アーカイブでは、スタッフや利用者の声を通じて、現代に適した地域住民同士の関わりと、心地よい暮らしを紹介し、住まいにおける新たな地域コミュニティのあり方を提示しています。



▲OPH石橋テラスと
敷地内に併設する「てしまの森」